MEIJIMURA

2025
SPRING
明治村だより
117

02 明治村開村60周年記念
寄稿 阿川佐和子・中川 武　年表 開村55周年からの5年間の活動を振り返る

08 明治村の建築に視る
日本近代青春群像物語〈十七〉　芝川又右衛門邸 ― 阪神と和洋の間に咲いた花（その1）

11 MEIJIMURA TOPICS & 春の催しもの

14 A La Meiji-mura　聖なる奇跡を再現する／天童眼鏡橋お輿入れ記

明治村みらい基金

私たちの未来を豊かにする「明治」の価値 一緒に残し、伝えていきませんか

歴史的建造物を中心とした「明治時代からの贈り物」を未来へ残し続けるためには、多くの資金が必要です。明治村事業へのご支援をお願いします。

ご支援の内容

- 本物の価値を残し、未来へ伝えるための展示建造物の維持・保存修理
- 本物の価値を残し、未来へ伝えるための歴史資料の維持・保存修理
- 未来の指針となる明治時代の価値を伝えるための展示（常設展及び企画展）
- 明治時代製造の蒸気機関車及び京都市電の動態展示
- 博物館明治村の事業全般

1回3,000円からご支援いただけます（マンスリーサポーターは月額1,000円から）
公益財団法人明治村へのご寄付は一定の「税制控除対象」となります。

ご寄付の方法

明治村みらい基金へのご寄付は、以下の方法で行うことができます。

- **クレジットカード**
- **金融機関からの振込**
- **ゆうちょ銀行からの払込**

詳しくは博物館明治村公式サイト内
「明治村みらい基金」をご覧ください。

協賛会員（令和7年2月1日現在）

敬称略：五十音順

ゴールド会員

名鉄都市開発株式会社
矢作建設工業株式会社

一般会員

アイカ工業株式会社
株式会社安藤・間
因幡電機産業株式会社
株式会社NTTファシリティーズ
株式会社オノコム
株式会社熊谷組
合資会社斉木研磨工業所
株式会社シーイーテック
株式会社スペース
大興建設株式会社
株式会社丹青社
鉄建建設株式会社
戸田建設株式会社
日本たばこ産業株式会社
株式会社ファミリーマート
前田建設工業株式会社
三菱電機株式会社
株式会社森本組
アサヒ飲料株式会社
株式会社磯部組
株式会社魚津社寺工務店
NTP名古屋トヨペット株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社鴻池組
株式会社ザイマックス
柴山コンサルタント株式会社
スターツ東海株式会社
大成建設株式会社
中京テレビ放送株式会社
東京海上日動火災保険株式会社
株式会社中島工務店
能美防災株式会社
株式会社フジタ
三井不動産株式会社
名高土木株式会社
株式会社ヤシマキザイ
アサヒビール株式会社
株式会社伊藤園
株式会社エイムクリエイツ
株式会社大林組
株式会社関電工
コクヨマーケティング株式会社
佐藤工業株式会社
清水建設株式会社
株式会社扇港電機
株式会社竹中工務店
中設エンジ株式会社
株式会社東芝
西日本電信電話株式会社
株式会社長谷工コーポレーション
株式会社不動テトラ
三井不動産ビルマネジメント株式会社
名鉄EIエンジニア株式会社
株式会社LIXIL
厚見建設工業株式会社
伊藤忠商事株式会社
NTT都市開発株式会社
岡谷鋼機株式会社
キリンビバレッジ株式会社
五洋建設株式会社
サントリーコーポレートビジネス株式会社
株式会社新高土木
ダイキン工業株式会社
株式会社谷澤総合鑑定所
中部電力ミライズ株式会社
東洋電機製造株式会社
西松建設株式会社
株式会社日立製作所
ホーチキ株式会社
三菱商事株式会社
名鉄エリアパートナーズ株式会社
若松物産株式会社

「明治村だより」第117号（令和7年春号） 令和7年3月14日発行
発　行　博物館明治村
〒484-0000 愛知県犬山市字内山1番地　電話（0568）67-0314　https://www.meijimura.com
製　作　大日本印刷株式会社

「明治村だより」第118号発行のお知らせ
発行時期　令和7年7月予定
「明治村だより」は、順次Webで公開させていただきます。詳しくは博物館明治村公式サイトをご覧ください。
※郵送サービスは終了いたしました。ご了承ください。

表紙について　令和6年度写真コンテスト入賞作品　吉川 徹「春情」

60th 明治村開村六十周年記念

明治村開村六十周年にそえて

村長 阿川佐和子

撮影・枦木 功

開村六十周年、おめでとうございます。四代目村長としては、その六分の一を明治村と歩んでこられたのかと思うと光栄至極です。

十年前、村長を拝命したときは、いったい何のお役に立つのかと戸惑っておりましたが、十年経った今もって戸惑い続けつつも、明治村に出合うことができて、まことに人生が豊かになった実感を抱いております。

正直なところ、私の出身地である東京ではいまだに明治村の存在がさほど知られていないのが現状です。ドラマや映画の撮影現場として使われていることをかろうじて認識しているほどで、「まだ行ったことがない」と言う人が多くおられます。しかも、明治時代の建物や建造物の本物が置いてあることにびっくりされるのです。「え、作り物じゃないの？」と。こりゃ大変。そんなレベルの認識でしたか。この十年、明治村の館長、スタッフ、学芸員の皆様とともに三ヶ月に一度のペースでさまざまな催しを行ってきましたが、今後はさらに全国各地の方々に、明治の人のモダンで粋で丁寧な仕事ぶりを、建造物を通して楽しく面白く伝えていかなければなりません。老体に鞭打って精進いたす所存ですので、どうか皆様、一度は覗きにきてみてちょーだや。

博物館明治村という世界観とその風景
――開村六十周年に寄せて――

館長 中川 武

本年で、博物館明治村は開村六十周年を迎える。昭和四十年の開村は、間近に明治百年を控えていたこともあり、明治村には全国から注目が集まり、明治文化運動にふさわしい熱気に包まれたスタートだったと思う。その後の、帝国ホテルライト館の解体、移築問題の一方で、展示建造物の数が増加し、村内のインフラ設備や歴史資料、家具なども充実度を加えてきた。謎解きゲームなどの催事は来村者のモチベーションに大きな役割を果たしてきたが、極力、明治文化の背景に触れる機会となるように工夫されてきたようだ。来村者の中には、「(トロリー)ポールという名前は後で知ったが、京都市電の屋根の上にのった大きなアンテナのようなものをぐるりと回して方向を変えるのを、明治村で初めて見てびっくりした」という子どもの頃の記憶を話してくれた人がいた。

博物館明治村は、消滅の危機に瀕した歴史的建造物を、次善の救済策として移築し、復原修理の上、野外で保存展示することを本務としている。通常の美術館・博物館が直面してきた困難に加えて、明治村では、常に展示建造物の文化財としての修理という課題がついて回る。けれども、阿川村長を迎えた五十周年を契機とした心機一転の気運と、文化財建物の修理を通して入村者もスタッフも「歴史と自然」に直に立ち向かうという明治村ならではの風景を明治村文化の基調にするという世界観のもと、新しい一歩を踏み出すことができていた。残念ながら、そこへコロナ禍である。大型修理計画も練り直さざるを得なくなった。世界はますますIT技術と抽象的な画像文化が進展していくだろう。だからこそ人間とわたし達の世界から、本物の「歴史と自然」が失われてはいけない。明治の、そして日本の歴史と自然と格闘し、そこに育まれた明治の文化を体現する明治村の風景に誇りをもつという、明治村の世界観をもとに更なる一歩を踏み出していきたい。

2016年5月
名古屋市内でシンポジウム「ミュージアムのあるくらし」を開催。ゲストは岐阜県美術館館長・日比野克彦氏。

2016年11月
阿川村長とめぐるスペシャルガイドツアー開催。公募により選ばれた参加者とともに村内を学芸員のガイドで見学。

2017年7月
芝川又右衛門邸縁者の一人でもある、千島土地株式会社社長・芝川能一氏をゲストに迎え、「明治村シンポジウム2017 文化が街や人を元気にする」を大阪市中央公会堂で開催。

2015年3月
村長・館長就任パレードの様子。

2020年11月
明治村音楽祭 リードオルガン＆バンドネオン「風の調べ」開催。演奏後は、阿川村長、中川館長を交えたトークショーも実施。

2019年9月
毎年恒例となった、阿川村長とめぐるスペシャルガイドツアー。

2024年5月
トークセッション「感染症との闘い これまで、そしてこれから」開催。新型コロナウイルス感染症対策分科会会長等を歴任した、結核予防会理事長・尾身茂氏を招き、北里柴三郎についてやコロナ対策、感染症との今後の向き合い方について語っていただいた。

2022年3月
明治村みらい基金創設イベント「明治時代からの贈物を未来へ」開催。日本ファンドレイジング協会代表理事・鵜尾雅隆氏をゲストに、トークショーを実施。

2021年3月
鼎談「明治を知り、明日を知る」開催。一般財団法人聴竹居倶楽部代表理事の松隈章氏を迎え、近代建築の幕開けとなった「明治」という時代を振り返るとともに、今後の博物館のあり方について語った。

開村五十五周年からの五年間の活動を振り返る

博物館明治村は、明治時代の貴重な建造物を保存展示する野外博物館として昭和四十年三月に開村六十周年を迎えます。明治時代は、日本が西洋の文化や制度を取り入れ日本独自の文化と融合し、近代日本の礎となった時代。その歴史的価値を後世へと伝えるため、明治村は様々な活動を行っています。ここでは、開村五十五周年以降の明治村の活動をご紹介します。

令和2（二〇二〇）年

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、臨時休村・ステイホーム中にお楽しみいただける動画配信を実施

新型コロナウイルス感染症拡散防止の観点から、三月二日～十九日および四月十一日～五月十五日の期間、臨時休村しました。この間、「#おうちで明治村」と題し、自宅で博物館明治村をお楽しみいただける動画を、SNSで配信しました。

特別展示 **「中日新聞で振り返る 博物館明治村の五十五年展」**

▼期間／三月二十日～八月三十日

中日新聞に掲載された写真や記事二十六点を展示し、明治村開村五十五年の軌跡を振り返りました。

◆「燈台模型展」

▼期間／三月二十日～六月二十八日

品川燈台が建設されてから百五十年を迎えることを記念して、東海市在住の久保邦雄氏が制作した燈台模型を展示しました。

企画展 **「折りのいろとかたち ――全国天神人形大集合――」**

▼期間／四月四日～六月二十五日

端午の節供にちなみ、子どもの成長や学業成就を祈る郷土玩具「天神人形」を、制作地域ごとの特徴に分類し、ご紹介しました。

◆「名鉄岩倉変電所」保存修理工事竣工

▼公開日／三月十八日

修復・耐震補強工事終了に伴い、村内唯一の名古屋鉄道関連施設であることから、「名古屋鉄道の軌跡」上映と、名古屋鉄道と明治村のポスター展示を開始。同日十三時からは記念式典も実施しました。

阿川村長企画 **鼎談「明治を知り、明日を知る」**

▼開催日／三月二十七日※令和二年三月から延期して実施

一般社団法人聴竹居倶楽部代表理事の松隈章氏をお招きし、阿川村長、中川館長との鼎談を開催しました。

特別展示 **「ろろうに剣心 最終章 The Final／The Beginning」公開記念 特別展示**

▼期間／三月十三日～六月二十七日

前作映画から最新作までの紹介パネル、映画衣装、明治村所蔵「逆刃刀」等を展示し（三月二十日～四月十一日）、映画のみどころをご紹介しました。

学芸員の小部屋 **「これぞDA・GA・SHI！黄金時代の駄菓子」**

▼期間／五月十五日～六月三十日

明治生まれの駄菓子職人・石橋幸作氏（一九〇〇―一九七六）が紙粘土で復元作成した、全国各地に伝わる駄菓子模型コレクション約三〇〇点の中から、約五十点を展示しました。

企画展 **「金魚絵師 深堀隆介×博物館明治村 金魚桶」**

▼期間／七月二十二日～九月五日

明治村開村五十五周年を記念して深堀氏が制作した連作「五十五の金魚盆」のほか、金魚絵をモチーフとした体感型デジタルアトラクション「金魚桶」を組み合わせてご紹介しました。

◆メディアサイト「明治をみつける。『！』をみつける。『メイジノオト』」開設

▼公開日／八月二十六日

「昔のことなのに新しい」「知らなかったのに懐かしい」そんな明治時代に思いを馳せていただき、現代の生活にも役立つ情報を配信するメディアサイト「メイジノオト」を新規開設しました。

企画展 **「博物館明治村×フレーベル館 『恩物』の世界―ドイツの知育玩具―」**

▼期間／九月十一日～十二月十二日

十九世紀ドイツの教育者・フレーベルが考案した知育玩具「恩物」と、明治時代の日本で「恩物」がどのように受け入れられていったのかを、

約四十件の資料でご紹介しました。

学芸員の小部屋 **「ナゾ・謎・錦絵～秋から解き明かす～」**

▼期間／十月二日～十一月七日

季節の花「菊」や「紅葉」が描かれた錦絵の描写から、歴史のメッセージを読み解いてご紹介しました。

学芸員の小部屋 **「空は世界へつづいている ～海外の機関紙にみる青少年赤十字の活動～」**

▼期間／十月十六日～十二月十二日

海外の青少年赤十字の活動を、戦前の機関紙からご紹介しました。

阿川村長企画 **「明治村であいましょう～古今東西の響き～」**

▼開催日／十一月十三日

タブラ奏者のU-zhaan氏、音楽家の蓮沼執太氏をお招きし、演奏会と阿川村長、中川館長を交えたトークショーを行いました。

令和4（二〇二二）年

企画展 **「『犯人は誰だ？』謎解きの誕生 ～明治・大正の探偵小説から江戸川乱歩まで～」**

▼期間／三月十九日～六月二十六日

三歳から十八歳までを名古屋で過ごした江戸川乱歩を軸に、旧蔵の明治・大正の探偵小説や東海地方での乱歩の交友関係等を、約七十件の資料でご紹介しました。また、令和三年秋に被災した「江戸川乱歩館（三重県鳥羽市）」の復興支援キャンペーンを実施し、あわせて一部資料を借用、展示しました。

◆「ゐのくち渦巻ポンプ」重要文化財に指定

▼指定日／三月二十二日

井口在屋（いのくちありや）が発明した、当時世界から注目された理論に基づいて製造された「ゐのくち渦巻ポンプ」が、重要文化財に登録されました。

阿川村長企画 **「明治村みらい基金」創設記念イベント 「明治時代からの贈物を未来へ」**

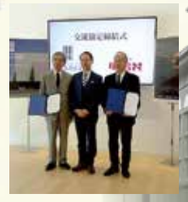
▼開催日／三月三十一日

「明治村みらい基金」創設を記念し、鵜尾雅隆氏（日本ファンドレイジング協会代表理事）をゲストに、阿川村長、中川館長とトークショーを実施しました。

◆谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館と交流協定を締結しました

▼締結日／六月二十四日

谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館と相互調査研究、企画事業への協力を図り、交流を促進するため協定を締結しました。



企画展 **「金魚絵師 深堀隆介展 甦る水の記憶 五十五の金魚盆」**

▼期間／七月二十三日～九月二十七日

透明樹脂にアクリル絵具で金魚を描いた作品で知られる現代作家・深堀隆介氏の展覧会を開催しました。博物館明治村開村五十五周年にちなんで制作された連作「五十五の金魚盆」などを展示したほか、半田東湯では夏祭りの「金魚すくい」の記憶と「銭湯」の記憶を重ねるインスタレーション「金魚湯」を実施。呉服座で開催したライブペインティングでは、ナビゲーターとして出演予定だった阿川村長が、リモートで参加しました。

令和3（二〇二一）年

◆第四高等学校物理化学教室 常設展示リニューアル

▼公開日／一月十六日

初代館長 谷口吉郎と元財団法人明治村理事長 土川元夫氏の顕彰室をリニューアル、および用意室など含め五室を一般公開しました。

◆つみきひろばＧａｂｅ～フレーベルからのおくりもの～ オープン

▼公開日／六月二十一日

帝国ホテル・ライト館の設計者であるフランク・ロイド・ライトも幼少期に嗜んだとされる、19世紀ドイツの教育学者フリードリヒ・フレーベルが発案した世界初の教育遊具「恩物」をはじめ、一万ピース以上のつみきも用意し、お子様の自由な発想をもとに遊んでいただける屋内型遊戯施設を「聖ヨハネ教会堂」に開業しました。

◆宇治山田郵便局舎 保存修理工事竣工

常設展示「つながる ひと・こころ・もの」公開

▼公開日／十一月三日

宇治山田郵便局舎の保存修理工事竣工にともなって、常設展示も新たにリニューアルオープンしました。それぞれの時代の象徴的な郵便ポストを軸に、郵政博物館所蔵の郵政史関係資料と明治村所蔵資料とで郵便制度の歴史をご紹介するとともに、旧所在地・伊勢地域の当時の様子をパネル等でご紹介しています。

企画展

「金魚絵師 深堀隆介×博物館明治村 僕の金魚園」

▼期間／八月十一日～九月二十五日

代表作「金魚酒」シリーズや、色とりどりの金魚を売る屋台をイメージした大型インスタレーション「僕の金魚園」に加えて、本展のために制作した新作を含めた三十八件の作品で、深堀氏の神秘的な作品世界をご紹介しました。

◆江戸川乱歩館（三重県鳥羽市）復興支援キャンペーン ご有志目録を鳥羽商工会議所へ贈呈

▼実施日／八月十七日

令和三年の火災で大きな被害を受けた江戸川乱歩館（三重県鳥羽市）の復興支援キャンペーンとして、企画展「『犯人は誰だ？』謎解きの誕生～明治・大正の探偵小説から江戸川乱歩まで～」開催中に来場者から募ったご有志総額三四八、六一五円の目録を、鳥羽商工会議所へ贈呈しました。

阿川村長企画

「ジブリの想い 明治村の想い その先にあるもの」

▼開催日／十一月二十六日

愛・地球博記念公園にジブリパークが開園したことを契機に、三鷹の森ジブリ美術館館長の安西香月氏をゲスト迎え、ジブリと明治村の想いとこれからの活動について、阿川村長、中川館長とともに語っていただきました。

令和6（二〇二四）年

企画展

「乱歩 ✲ 人間模様」

▼期間／三月十六日～七月二十八日

江戸川乱歩作品の登場人物を、イラストと、金城学院大学文学部小松ゼミ生による解説によってご紹介したほか、江戸川乱歩と親交があった人々の間で交わされた書簡や、岩田準一氏（鳥羽市出身）による乱歩小説の挿絵原画とスケッチブックを展示しました。

◆本邦初！ 明治村古墳特別公開

▼開催日／一月二十日、二月三日

赤塚次郎氏（ＮＰＯ法人 古代邇波の里・文化遺産ネットワーク理事長）を講師にお招きし、明治村村内にある古墳「明治村古墳」を初めて一般のお客様に公開しました。

◆明治村ファン集会を開催

▼開催日／三月二十日

明治村をこよなく愛する十名の方と明治村スタッフで意見交換を行いました。明治村に対する熱い想いをお聞きすることができ、今後の運営の参考となりました。

阿川村長企画

「バイオリン修復記念 明治建築に響くバイオリンの音色」

▼開催日／三月二十六日

バイオリニスト・石田泰尚氏と阿川村長、中川館長によるトークショーを行った後、石田氏とピアニスト・岡本知也氏によるコンサートを実施しました。演奏会では、鈴木バイオリン製造株式会社で修理を行った、明治四十三年製の館蔵バイオリン（鈴木バイオリン製）も使用されました。

◆「北里研究所本館・医学館」常設展示リニューアルオープン

▼公開日／五月十一日

二〇二四年に発行された新紙幣の肖像に北里柴三郎が採用されたことを記念し、北里研究所本館・医学館内の常設展示をリニューアルしました。

今回のリニューアルでは、これまでの展示でもご紹介していた「北里柴三郎の顕彰」に加え、「移築の経緯と建物の特徴」、「顕微鏡の発展」、「日本における感染症の歴史」を柱に展示を構成しました。ご来賓に学校法人北里研究所特命補佐・北里柴三郎記念博物館館長の朝日田卓氏、公益財団法人結核予防会理事・事業部長の小林典子氏をお迎えし、常設展示リニューアルオープンを記念したテープカットを行いました。

阿川村長企画

トークセッション「感染症との闘い これまで、そしてこれから」開催

▼開催日／五月十六日

新型コロナウイルス感染症対策分科会会長等を歴任した結核予防会理事長・尾身茂氏をゲストに、北里柴三郎についてや、コロナ対策、感染症との今後の向き合い方について、阿川村長、中川館長とともに語っていただきました。

◆明治村入村者数累計五千万人到達

▼期日／五月十七日

ご入村五千万人目のお客様を正門にてお迎えし、中川館長より記念品と目録の贈呈を行いました。

◆「新紙幣発行記念！”ニューフェイス“をご紹介」

▼開催日／六月二十九日～九月二十九日

日本銀行より二十年ぶりとなる新紙幣が発行されるのを記念し、新千円札の肖像に採用された北里柴三郎をはじめ、渋沢栄一、津田梅子の生涯や偉業を、パネルや関連資料等を通してご紹介しました。

企画展

「江藤新平没後百五十年 明治時代の裁判所をのぞいてみよう」

▼開催日／七月二十日～九月八日

初代司法卿（現在の法務大臣）の江藤新平が亡くなって百五十年を記念し、明治時代に実際に使われていた宮津裁判所の建物で、江藤新平が目指した裁判制度や当時の裁判所の様子などをパネルでご紹介しました。また、初の試みとして、法廷内外を巡り、当時の法服（複製）を試着できる特別ガイドを実施しました。

◆「見て 撮って 体感！明治村ののりもの」開催

▼期間／九月十四日～十二月十五日

体験乗車ができる国内最古のＳＬ「蒸気機関車十二号」がイギリスから輸入されて百五十年、村内での運行開始五十周年を記念し、明治村が保存する明治の「のりもの」をテーマに開催。明治天皇御料車、昭憲皇太后御料車、儀装車の特別公開など、様々なイベントを実施しました。また、十月十二日から十一月十七日まで、「のりものスタンプラリー」を開催しました。

阿川村長企画

トークセッション「本をつくる愉しみ～ブックデザインを読む～」開催

▼開催日／十一月二十三日（土・祝）

数多くの文学作品の装丁を手掛ける大久保明子氏をお招きし、阿川佐和子村長、中川武館長とともに、装丁を通して「本」をつくりあげる愉しさについて語っていただきました。

企画展

「郷土玩具『うさぎ』と泉鏡花の美しき装丁」展

▼期間／十二月二十三日～令和五年二月十二日

令和五年の干支「卯」にちなみ、うさぎをモチーフとした日本各地の郷土玩具や、うさぎの玩具をこよなく愛していた作家・泉鏡花の書籍の装丁をご紹介しました。

令和5（二〇二三）年

阿川村長企画

「洋琴の音色は心をＨＡＰＰＹに！」

▼開催日／三月十八日

館蔵のウィーン製ピアノ（Ｐａｌｌｉｋ＆Ｓｔｉａｓｎｙ、一九二〇年頃製）の修理・チューニングを行い、そのピアノを使用したピアニスト・石井琢磨氏による演奏会を実施しました。また、石井氏と阿川村長、中川館長によるトークショーも実施しました。

企画展

「これは事実か？フィクションか？ 明治アブない大衆事件簿 ―錦絵版『東京日々新聞』の世界―」

▼期間／七月二十九日～十一月二十六日

明治時代初期、世間を騒がせたセンセーショナルな事件や奇々怪々な出来事を、錦絵新聞でご紹介しました。

企画展

「帝国ホテル・ライト館竣工百年記念 東洋の宝石」

▼期間／九月一日～十二月十七日

帝国ホテル・ライト館の竣工百年を記念する展覧会。ＭｏＭＡやコロンビア大学図書館で所蔵の資料や図面を利用し、建物内の色彩の復原を試みたほか、渋沢栄一が帝国ホテルで催した宴席メニューの再現や、著名人がライト館について語った言葉を集め、ライト館が「東洋の宝石」と称された由縁を探るなど、様々な切り口で帝国ホテル・ライト館の魅力をご紹介しました。

◆名電一号形 展示終了し札幌市交通局に返却

▼搬出日／九月二十四日（九月三日展示を終了）

平成二十六年から約九年間に渡って公開してきた「名電一号形」の展示を終了し、所有者である札幌市交通局へ返却しました。

阿川村長企画

トークセッション「帝国ホテル・ライト館 ―未来へのメッセージ―」

▼開催日／十一月二十六日

編集者で慶應義塾大学ＳＦＣ特別招聘教授でもある白井良邦氏をお招きし、阿川村長、中川館長とともに、帝国ホテル・ライト館について語っていただきました。

明治村の建築に視る日本近代青春群像物語〈十七〉

芝川又右衛門邸——阪神と和洋の間に咲いた花（その一）

館長　中川　武

芝川又右衛門邸（写真1・2／以下、芝川邸と記す）は、赤瓦で急勾配の屋根両面に、小屋裏の小窓をバタフライのようにはね上げ、白い漆喰壁の正面に突き出た煙突と、竪長の出窓、そして石積の傾斜地に張り出すように軽快なベランダが取り巻いている。一見、デザインオリエンテッドな斬新で鋭い外観なのに、小規模なせいか、どこかしっとりと落ち着いた風情で、鮮烈な吸引力と、誰にも気づかれないようにそっと咲き、その存在に気づいた人のみが美しさに気づくような、そんな谷間に咲いたユリの花の愛らしさが同居しているように見える。しかし解剖していくと、日本近代住居史上の大輪の花であることが浮上してくる。

写真1　芝川又右衛門邸

写真2　階段ホール

写真3　創建時の芝川邸

一　縁は異なもの

芝川邸は明治四十四（一九一一）年の建立で、小品ではあるが、武田五一（一八七二～一九三八）の名作として知られた住宅である（写真3）。この名作が明治村に来たことは、奇跡とは言わないまでも、大震災にあいながらも、幸運としかいいようのない人の縁に恵まれて救済された。のっけから蘊蓄（うんちく）めいて恐縮だが、この際、人の縁と歴史によりつくられる建築の世界を知ってもらう良い機会なので、芝川邸にまつわる縁を紐解こう。

建設業や建築家は、全部ではないが、江戸期の請負大工やお抱え大工が発祥になるものがある。発祥の経緯によってその職業の性格が決まるものでもないが、発祥を原因とするその性格が歴史的に強化、決定されていくことが多い。古代律令時代、中国から移植した制度、技術、文化の一環で、大工（おおいたくみ）を長とする国家造営組織がつくられた。国家の空間施設全般を企画、運営、実施する制度の頂点が大工だった。この大工が、中世を通じて技術が練磨され、小さな民間組織で実力を発揮するようになり、江戸期には、地域や施主の負託に応えるようになる。というのも、建設造営の中枢は専門技術に負うところが大であり、あまねく社会の要請に対して、あらかじめ責任を負う請負建設業や、施主の懐に入って、微に入り細に入り施主に尽くすという建築家の本分を担ったのが、江戸期の大工だったからである。

写真4　被災時　正面にあった煉瓦煙突をはじめ壁面がかなり崩落

平成七（一九九五）年一月十七日、阪神淡路大震災で芝川邸は被災した（写真4）。当時のご当主、又彦氏は、業務関係にあった竹中工務店大阪本店設計本部長・赤尾建蔵氏に、対策について相談した。赤尾氏は、途上国の教育施設をボランティアで建設・寄贈した建設会社設計グループのリーダーで、この計画は建築学会文化賞の審査対象になった。私も審査員の一人だったので、赤尾氏の、建築文化への深い洞察と情熱を持った、その人となりはよく存じ上げている。震災により芝川邸が受けた被害は、幸いにも構造部材にまで及んでおらず、彼は修理により再び住むことが可能との診断を下したが、持ち主は、震災時の恐怖の衝撃が去らず、自治体などによる移築保存を希望した。赤尾氏は奔走されたが、当時、公共団体はどこも災害復旧で手一杯であった。そこで人の縁が動き出す。赤尾氏が、後に竹中大工道具館館長になられたことが、大工道具研究者でもあり同館の理事を務めていた、当時の村松貞次郎明治村館長と、ここで相まみえたのだ。

写真5　竹による建物外形の仮組み　建物敷地が決定された

写真6　復原木工事の様子

二　移築にむけて

武田五一の芝川邸は、既に京阪神間ではとりわけ著名であり、研究者や神戸大学の学生達も、被災状況と残存部材の実測調査のために、ボランティアで続々と参加してくれ

「芝川又右衛門邸」

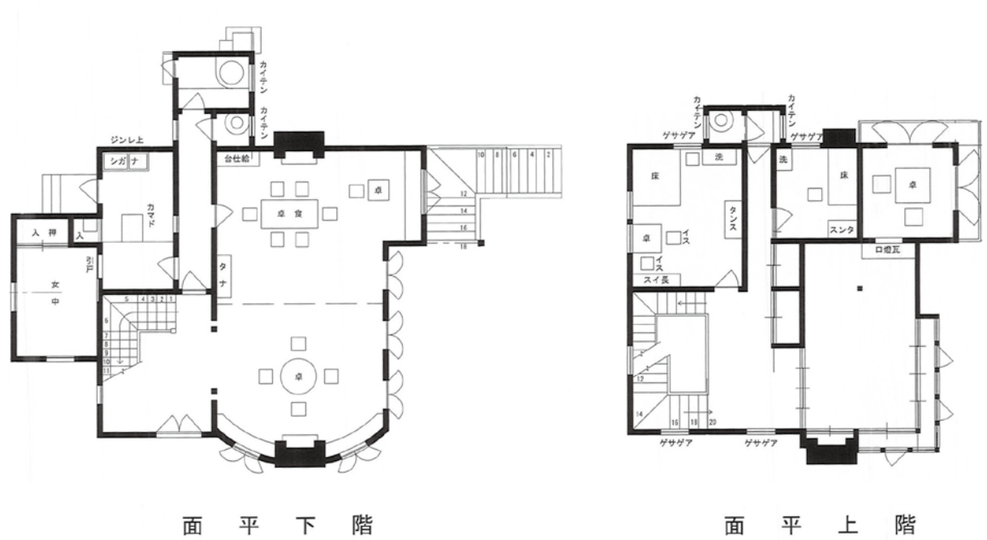


図1　芝川家御別荘新築設計図トレース図ー一階及び二階平面図ー

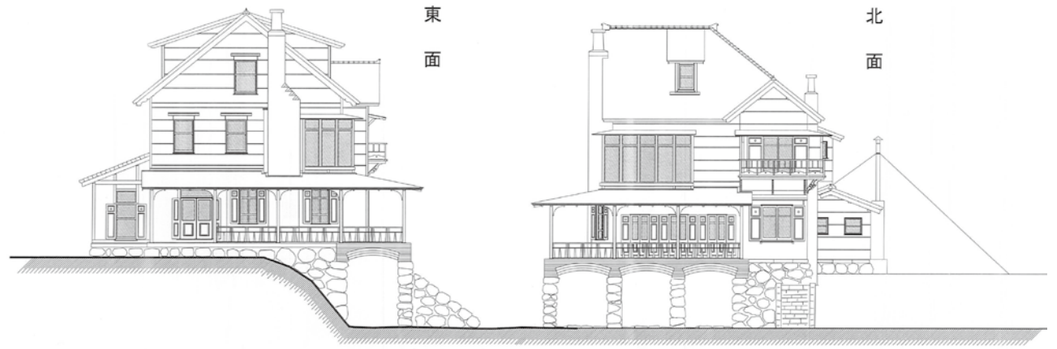


図2　芝川家御別荘新築設計図トレース図ー東及び北面姿図ー

た。しかし、明治村には解体と移築の費用がない。それ以前は、解体が決まった建物は明治村が寄贈を受け、明治村の予算で解体、移築、復原を行うことが多かった。この費用は新築よりはるかに増大するが、文化財クラスの価値のある建物の保存のためには止むを得ない。しかし、芝川邸の移築復原工事は、明治村にとって久し振りの事業であり、当時入村者が減少傾向にあった明治村には、その予算手当の目途がつかなかったのである。持主はといえば、住み続けることは断念せざるを得なかったが、愛着がなかったわけではない。「いつか必ず建てます」という明治村の決意を了とされ、とりあえずの解体・部材の運搬費用を負担して下さった。さらに、この実務を担当した工務店の先代が、かねてより私淑していた武田五一が大正七（一九一八）年、名古屋高等工業学校長に転任してこられた折に、「ほとんど入り浸るようにして教えを受けた恩をいまこそ果たしたい」ということで、関係者の集まりの席で、芝川邸の復原木工事をボランティアでやりたいと希望された。これによって、もう一度関係者一同のエンジンに火が付き、復原に関わる確認申請業務や寄付金の免税措置を受けるための関係各省庁との交渉に邁進し、工事開始に漕ぎつけることができたのである（写真5・6、図1・2）。

「何としてもこの建築の価値を護りたい」という願いが、人々と組織の縁を繋ぎ、希望を実現するための土台をつくりあげたのだといえる。

主な参考文献

『芝川邸と武田五一展～阪神大震災と文化財保護～』株式会社竹中工務店　一九九六年五月
「特集芝川又右衛門邸」『明治村だより』第四十九号　二〇〇七年九月
『明治村建造物移築工事報告書　第十二集　芝川又右衛門邸』博物館　明治村　二〇一〇年

MEIJIMURA TOPICS 2024.11-2025.2

博物館明治村の飯田喜四郎元館長が、2025年1月4日にご逝去されました。

飯田元館長は、博物館明治村開村の2年前、財団法人明治村が設置した建築委員会に第1回から参加、1997年には館長に就任（2010年まで）、明治村の60年を支え続けてくださいました。

これまでのご指導とご支援に感謝申し上げますとともに、衷心よりお悔み申し上げます。

故飯田喜四郎先生ご経歴	
1924年	東京生まれ
1949年	東京大学第二工学部建築学科卒業、同大学院進学（1954年満期退学）。
1953年	フランス政府給費留学生としてフランス文部省建築局文化財建造物特別講座聴講生（1956年まで）
1958年	総理府技官・宮内庁管理部工務課長補佐
1963年	文部省出向・名古屋大学工学部助教授、財団法人明治村建築委員会委員
1966年	工学博士（東京大学）の学位授与、名古屋大学工学部教授
1979年	財団法人明治村理事（2010年まで）。
1981年	愛知県文化財保護審議会委員（2004年まで）
1982年	文化庁文化財保護審議会第二専門調査会建造物部会専門委員（1996年まで）
1988年	名古屋大学定年退官、同名誉教授、愛知工業大学教授。愛知県文化財保護審議会長（2004年まで）
1997年	財団法人明治村副理事長・博物館明治村館長（ともに2010年まで）
2002年	神宮司庁造宮局技術顧問（2004年まで）
2003年	日本建築学会大賞受賞、瑞宝中綬章受章。
2005年	神宮式年造営庁技術顧問（2015年まで）
2010年	公益財団法人明治村顧問（2025年まで）

主な著書

『西洋建築史図集』
（小林文治、堀内清治、桐敷真次郎と共著、彰国社、1953年）
『ロマネスク』
（単著、美術出版社、1967年）
『ゴシック建築のリブ・ヴォールト』
（単著、中央公論美術出版社、1989年）
『建築講和Ⅱ』
（黒岩俊介と共訳、中央公論美術出版、2024年）　他多数

11/23 トークセッション「本をつくる愉しみ ～ブックデザインを読む～」を開催

11月23日（土・祝）、数多くの文学作品の装丁を手掛ける大久保明子氏をお招きし、阿川佐和子村長、中川武館長とともに、装丁を通して「本」をつくりあげる愉しさについて語っていただきました。

2/1～4/6 「明治村の雛飾り」を開催中

博物館明治村では、「年中行事を通じて季節を感じよう」と題し、年間を通じて様々な展示を行っています。2月1日（土）から4月6日（日）にかけては、上巳の節供として「明治村の雛飾り」と題し、郷土玩具を中心に、全国各地の雛飾りを三重県庁舎特別展示室で展示しています。

1/27 【第71回文化財防火デー】犬山市消防本部と合同訓練を実施

文化財防火デー（1月26日）にちなみ、1月27日（月）、犬山市消防本部と明治村自衛消防隊は合同で消防訓練を行いました。本訓練は、火災などの災害から貴重な文化財を守るとともに、お客様の安全を図るため、適切な通報・連絡、初期消火、避難誘導体制の確立を目指した訓練です。

訓練は、当館が保存する「東松家住宅」（重要文化財）からの出火を想定し、実際に火災報知ベル鳴動・村内放送・発煙発火装置作動を行い、明治村自衛消防隊11名と犬山市消防本部が合同で一斉放水を行いました。

2/2,9 「明治村古墳特別公開」を開催しました

2月2日（日）と2月9日（日）、「明治村古墳特別公開」イベントを開催し、両日合わせて50人以上のお客様（予約制）にご参加いただきました。

参加者の方々は、初めに第四高等学校物理化学教室で赤塚次郎先生（NPO法人 古代邇波の里・文化遺産ネットワーク理事長）の講義を聞き、その後現地で古墳見学を行いました。

明治謎解きアトラクション

江戸川乱歩と不可解な残像

黄昏の新聞社 3.8 Sat. → 7.21 Mon.

江戸川乱歩の作品をモチーフにした謎解きシリーズ 第2章開幕！

時は明治。とある寂れた新聞社の扉を5年ぶりに叩いた青年の名は“太郎”。以前のような荒筋だけの原稿ではなく、いくつもの小説を書き上げるほどになり、新進気鋭の作家として名をあげはじめている小説家の卵だ。

小説家として成長しつつある姿を見せようと久しぶりに新聞社を訪れた太郎は、雰囲気のあまりの変わりように思わず息を呑んだ。敏腕ジャーナリストだった“明智金之助”はおろか、他の記者もまったくおらず閑古鳥が鳴く社内には、気心の知れた編集長“雨村春子”がただ1人佇んでいた。

この2人の再会が、新たな事件の始まりを告げることになるとは、まだ知る由もなかった。

“Scoop”は6コース！

Scoop 外伝
操られた指 500円｜難易度0.5
「この事件は、もしかして…」
以前、ある事件を取材していた敏腕記者の金之助。取材結果を聞きそびれていたことを春子から告げられた太郎とあなたは、過去資料をまとめ直すことになった。

Scoop 01
双子の兄 700円｜難易度1
「私は、世にも珍しいふたごの一方として生れました。股（もも）にある一つのほくろを除いては――」容疑者に挙がったのは「双子の兄弟」。この兄弟に隠された秘密が事件を闇の中へ迷い込ませることになる。

Scoop 02
結婚指環 800円｜難易度2
「馬鹿な事を云ってはいけない。そりゃ人違いだろう。何なら私の身体を検べて見るがいい」
結婚指環の窃盗事件が発生した。しかし身体検査をしてもどこからも出てこない。果たして消えた結婚指環の行方は!?

Scoop 03
戦慄の四角館 1,000円｜難易度3
「大旦那さまはだれにもお会いしないとのことです」兄弟のうち長生きした方が全財産を与えられる蛭間家。兄とともに財産が忽然と消えたことをきっかけに四角館に関わる人々の思惑が動き出す。

Scoop 04 5.10 Sat.始動！
紅トカゲ 1,500円｜難易度4
「ブラボー!ルージュ・エンジェル!」
「紅色のトカゲが生きているかの様だ!」
狂気めいた大夜会がとある一室で開催されていた。紅トカゲの刺青を持つ美女が微笑む先には…。
※挑戦するには解決印が押されたScoop 03が必要です。

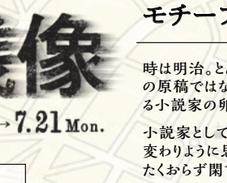
Scoop 05 5.10 Sat.始動！
彫刻と旅する男 1,800円｜難易度5
「この話が私の夢か私の一時的狂気の幻でなかったならば、あの彫刻と旅をしていた男こそ狂人であったに相違ない」動く彫刻がある、という奇妙な噂を耳にした春子。人間そっくりの彫刻を見張るため、双眼鏡を覗き込んだ先で見えた光景が町を揺るがす事件に発展するのだった。
※挑戦するには解決印が押されたScoop 04が必要です。

その他の「江戸川乱歩と不可解な残像」をさらに楽しめる情報は明治村公式HPをチェック！

明治体験工房 会場 名鉄岩倉変電所

万華鏡をつくろう！ 4/19(土)・20(日)、26(土)・27(日)

明治時代は「ひゃくいろめがね」の愛称で親しまれた万華鏡。好きな色のビーズを選んでつくり、筒をのぞき込むと…どんな景色が見える?



受付時間 10:30～16:00（体験時間 20～25分）
参加料 1キット 600円

べらぼうに楽しもう! 明治の多色刷り体験

6/7(土)・8(日)、14(土)・15(日)

明治村所蔵の錦絵の中からスタッフが選んだ「これぞ明治!」という作品で、浮世絵の一種である錦絵の多色刷りを体験しよう。

受付時間 ①10:30～11:30 ②13:00～14:30（体験時間 20～25分）
参加料 お1人様 500円(1版)

事前予約制 帝国ホテル中央玄関修理現場見学会

5/24(土)、6/7(土)

修理工事中の「帝国ホテル中央玄関」を修理技術者が特別にご案内します。※雨天時はご案内内容を変更する場合があります。

時間 ①11:30～ ②13:30～（各回約60分）
対象 高校生以上 参加料 お1人様 1,500円(各回20名様)

詳細・予約
右記の二次元コードより
ご確認・ご予約ください。

※画像はイメージです。修理工事の進捗により当日ご覧いただく光景とは異なる場合があります。

事前予約制 明治村茶会 4/25(金)・26(土)

歴史的建造物を用いて開催するお茶会です。本年は初めて煎茶席も開催します。

席主 ・坐漁荘・亦楽庵席（濃茶）／筒井如是庵 ・学習院長官舎席（薄茶）／北村美術館
・芝川又右衛門邸席（煎茶）／和泉市久保惣記念美術館
参加料 25,000円（茶席3席、点心、模擬店）
予約 TEL:0568-67-0314「明治村茶会」係まで
締切 3/31(月) ※定員に達し次第、締め切らせて頂きます。

各イベントの詳細は、明治村公式HPをご覧ください。

60th 明治村開村60周年記念

博物館 明治村は、昭和40（1965）年3月18日に開村し、おかげさまで60周年！

3/18(火) 13:00 オープン!

工部省品川硝子製造所 メイジ珈琲時館

※画像はイメージです。実際とは異なる場合があります。

▲ ビー玉ポンチ
◀ 珈琲と明治村カステーラのセット
▲ あいすくりんソーダ

明治時代に日本で広まった「珈琲」や「カフェ・喫茶店」文化をテーマにした飲食店がオープン! ガラスの揺らぎを感じる空間で、こだわりの珈琲やスイーツなどをお召し上がりください。

場所 工部省品川硝子製造所内

詳しくは明治村公式HPをご覧ください。

メイジ珈琲時館オープン記念展 「ミルで見る? 見るだけじゃない珈琲と喫茶店文化」

3/18(火)～6/29(日)

豊かな香りと味わいで至福の時をもたらす「珈琲」。明治時代にもたらされた珈琲と喫茶店文化を、明治村所蔵の「ミル」や「コーヒーカップ」などの資料からご紹介します。

会場 宇治山田郵便局舎

京都市電 花電車運行

5/17(土)～6/15(日)

京都市電が動態展示を開始した昭和42年3月18日（開村2周年）の開通式で披露した姿をモチーフに車両を飾り、運行します。
※車両都合や悪天候等の理由により、装飾のない車両で運行する場合があります。

※画像は明治村での京都市電開通式の様子です。実際のデザイン・仕様とは異なる場合があります。

企画展 「明治村の“Oh!”たから大集合!」

3/8(土)～6/29(日)

明治建築を移築・保存することで、明治時代の人々の思いを後世に繋げていく「博物館 明治村」。開村から現在までの60年間を振り返りながら、まだ知られていない明治村が所蔵する“お宝”の数々をご紹介します。

会場 千早赤阪小学校講堂

同時開催! 「カクメイ」団スタンプラリー

開村60年の歴史を振り返りながら村内を巡り、明治村の「■」のスタンプを集めよう!
全てのスタンプを集めたら記念品をプレゼント!

ラリー用紙は入村ゲート（正門・北口）に設置!

「6」のつく日は! スタッフの“推し建物”ガイド

非公開箇所をはじめ写真映えスポットなど、スタッフイチオシの建物を特別にご案内します。

実施日 4月～7月の6日、16日、26日
実施時間 ①10:30～12:00 ②13:30～15:00
参加料 無料

事前予約制 「0」のつく日は! “とっておき”ガイドツアー

毎月テーマを設けて、明治村内にある複数の建物を巡ります。

実施日 4月～7月の10日、20日、30日 ※休村日を除く
実施時間 ①11:00～ ②13:30～（各回約60分）
参加料 お1人様 500円（各回15名様）

詳細・予約
記載のガイドおよびガイドツアーは
右記二次元コードよりご確認・ご予約ください。

事前応募制 「村長の10年、館長の10年、そして『夢の博物館』明治村へ」

3/20(木・祝)開催!

“ガチ”対談

※応募は締切ました。

就任して満10年を迎えた阿川村長と中川館長。ふたりがこれまでの明治村での活動を振り返るとともに、これからの明治村像を語り合います。

中川 武（明治村館長）

阿川 佐和子（明治村村長）
撮影・枡木 功

日本とドイツで活躍中のオルガニスト・吉田文氏によるパイプオルガン演奏もお楽しみください。

写真1　大明寺聖パウロ教会堂

聖なる奇跡を再現する

5丁目56番地　大明寺聖パウロ教会堂

長崎の伊王島に大明寺教会堂が建設されたのは、明治一二(一八七九)年。ルルドの洞窟に祀られていたマリア像には明治二一年の年号が刻まれており、教会堂にルルドの洞窟が作られたのはそれ以降だと考えられています(註一)。大明寺教会堂のルルドの洞窟がいつ頃作られたのかはわかりませんが、時期的に当然、ルルドの聖母のエピソードを前提として日本へと贈られたのでしょう。

ところでみなさん、この大明寺のマリア像、つまり「ルルドの聖母」の姿が、一般的な聖母像と少し異なっていることにお気づきでしょうか。中世以来、キリスト教では愛情と真実の象徴として「赤い衣と青のマント姿」(註二)で聖母を描くことが、教義上の約束ごととされています。ところが、大明寺のマリア像は、白い衣に金色で縁取られた白いベールを被り、腰に青い布を巻いた姿をしていますね。実は「無原罪の御宿り」は聖書に記載のない信仰であり、通常の聖母とは異なる表現をすることが定められているのです。具体的には、十二、三歳の少女の姿であること、黄金の髪、白い衣の上に青いマントを纏っていることなどが「無原罪の御宿り」での聖母マリアを表す決まりです(註三)。細部に若干の相違点はありますが、大明寺の女性像は白と青を基調としていることから、「無原罪の御宿り」のマリアであることが分かるのです。

一方で、マリア像が被っている星を頂いた冠は、聖母マリアを見分ける目印として共通して挙げられるものです。教会堂内部でマリア像の背後に円形に配置された星も、この表現に基づいていると考えられます(写真3)。何となく光っているかのように見えるこの星、実は背後の板に星型の穴を開け、その部分に窓を設置することで、星型を通して外光が入ってくる仕掛けになっています(写真4)。マリア像の上部にも同様の仕掛けがあり、天から光が降り注ぐ演出がされています。

通常屋外に作られることが多いルルドの洞窟に対し、大明寺教会堂のルルドは、屋内に設置した上で、重厚な洞窟をわざわざ作り、そこに自然光を意図的に取り入れることで、聖母マリアとルルドの奇跡の神聖さを表現しています。作り手の創意工夫が光る、他に類例のないルルドの洞窟といえるのです。

写真2　大明寺聖パウロ教会堂「ルルドの洞窟」

写真3　ルルドの洞窟(部分)

写真4　大明寺聖パウロ教会堂「ルルドの洞窟」後ろ側(外壁部分小窓)

註一
大明寺教会堂に安置されていた聖母マリア像は、現在も大明寺教会堂で保存されている。明治村で展示しているマリア像はこのレプリカ。

註二
宗教美術では、聖人を表現する際に、服装や持ち物など、その聖人を示すアイテム・方法が定められている(宗教図像学)。

註三
画家で、異端審問所付美術監督官でもあったフランシスコ・パチェコが、その著書『絵画術』(一六四九年)の中で定めている。

主な参考文献
(1)高階秀爾『名画を見る眼』岩波書店　一九六六年
(2)山尾彩香「『無原罪の御宿り』にみる父権的支配者としてのマリア」西南学院大学博物館研究紀要　第4号　二〇一六年三月
(3)三俣俊二「大明寺聖パウロ教会堂の創建と変遷」『INAX REPORT』No.121　一九九五年十二月

写真1　天童眼鏡橋

天童眼鏡橋お輿入れ記

5丁目54番地 天童眼鏡橋

主要道、羽州街道の改修にともない架けられた天童眼鏡橋(正式名称「多嘉橋」(写真1))は、山形県天童市のほぼ中心部を流れる倉津川に架かる橋として、明治二十(一八八七)年に造られました(写真2)。山形県では、明治九年から十五年までに、「土木県令」の異名を持つ三島通庸(註一)県令が、県内十一か所に洋風建築の様式を取り入れた石橋のアーチ橋を架けました。古代ローマ建築に源流をもつアーチ橋と言えば、長崎眼鏡橋が有名ですが、三島が出身地・九州から石工を呼び寄せ、山形の石工に技術を伝授させたことにより、この地で多く石橋が造られるようになったと言われています。とは言え、このような西洋の土木技術の成果が東北地方で見られるのはまだ珍しく、多嘉橋は、「近在近郷から弁当を持って見物に集まりにぎわった」と言われていました(註二)。

羽州街道は、昭和二十七(一九五二)年に福島市から秋田市までの部分が国道十三号線に指定されます。多嘉橋は、完成から八十年余りの間、激増する交通と山形の厳しい風雪に耐え続けましたが、昭和四十四年、倉津川の改修工事と国道拡幅工事のため、いよいよ解体される運命を迎えます。天童市では「明治の遺産を保存しよう」という解体を惜しむ声を受けて、保存についても検討していましたが、工事費や維持費がかかり過ぎることから実現しませんでした。しかし、東京大学藤島亥治郎名誉教授が山形県視察の折、偶然に多嘉橋取り壊しの話を耳にしたことから、急遽、明治村への移築が決まりました。

昭和四十五年十一月一日、天童市助役(市長代理)、建設省山形工事事務所道路管理課長とともに、明治村担当者も出席し、お別れ会が開かれました。当時の新聞記事によると、お別れ会には、「別れを惜しむ地元の人たちが大勢詰めかけ、最後の姿を写真におさめていた」と記録されています(註三)。その後、解体工事(写真3・4)は、十一月十九日から約一ヶ月かけて慎重に進められ、解体材はその月のうちに、明治村までトラックで運ばれました。

昭和五十一年、明治村にて天童眼鏡橋の移築工事が完了します。記念式典、テープカット(写真5)が行われた後、「三代夫婦の長寿にあやかって橋の長久を祈ることが、江戸時代には一般化し、明治に入ると伊勢神宮宇治橋の渡り始めでも、全国の三代夫婦が招かれるようになった」(註四)と記されているように、明治村でも、ならわしに則った一家族三代夫婦による渡り初めが行われました。幅七・七メートル、長さ十三・三メートルの半円二連アーチ橋は、普段素通りしてしまうという方も、ぜひ橋の途中で足を止めて、眼鏡橋が歩んだ物語に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

写真2　天童市にあった頃の多嘉橋

写真3・4　解体工事の様子

写真5　テープカットの様子

註一
三島通庸(一八三五～一八八八)　薩摩藩(現・鹿児島県)の下級武士出身。大久保利通に認められ、東京府参事、教部省教部大丞、酒田県令を歴任した後、明治九～十五年に山形県令を務め、新道開削や石橋架橋の道路整備事業などに尽力した。

註二
参考文献(1)より引用

註三
参考文献(2)より引用

註四
参考文献(3)より引用

参考文献
(1)山形新聞夕刊　一九七〇年九月二日
(2)山形新聞朝刊　一九七〇年十一月二日
(3)三浦彩子「橋の渡り初めとその儀式に関する研究」(『土木学会論文集』Vol.80.No.7)二〇〇四年
(4)長野　寂「明治村の眼鏡橋」(『日刊やまがた14―4』)一九八三年